2024年度通常（第2回）理事会議事録

1. 日 時：2024年9月7日（土）11：00～15：30
2. 場 所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3階1会議室
オンライン会議システム ZOOM を併用での開催
3. 出席状況

出席理事 27名
出席監事 3名
出席オブザーバー 19名

・ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

理事：馬場益弘、中村隆夫、富田三和子、船澤泰隆、安藤淳、望月宣武、萩原ゆき、
宮野幹弘、尾形依子、古屋勇人、長田美香子、地川浩二、鷹野淳子、石川彰、伊藤亮一、
村田光宏 以上、16名

・ オンライン参加（自宅）

理事：土肥美智子、中村和哉、佐藤公俊、吉田愛、井上貴支、川戸仁、岩瀬喜貞、西尾隆、
平岡志帆、大槻映幸、田中葉子 以上、11名
監事：上野保、紙谷雅子、鈴木保夫 以上、3名
オブザーバー：浅田素之総務委員長、松田財政委員長、平松事業開発委員長、藤井裕文ルー
ル委員長、堀川郁子国際委員長、栗原茂勝医事科学委員長、坂口英明普及指導委員長、黒川
国民スポーツ大会委員長、宮本オリンピック強化委員長、中村公俊ジュニアユースアカデミ
ー委員長、久保田悟キールボート強化委員長、中澤信夫ジャパンカップ委員長、坂谷定生参
与、多賀啓コンプライアンス委員 以上、19名

4. 議事の経過及び結果

対面開催と ZOOM 併用でのハイブリット方式で開催した。出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互いに出来る仕組みになっていることを参加者各位に確認し、議案の審議を下記のとおり開催した。

（定足数の確認）

理事 32名中、出席者 27名により、定款 34条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33条に基づいて、馬場益弘会長が議長となり、2024年度臨時（第2回）理事会の開会を宣言し、議事進行を安藤淳専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、井上貴支、川戸仁の両理事が任命された。

(審議事項)

1) 2024年度第1次補正予算(案)

松田財政委員長から資料に基づき、2024年度第1次補正予算(案)について説明があった。

事業活動収入で当初予算から14,218千円の増加、事業活動支出で24,390千円の増加、事業活動収支差額は39,981千円の赤字(当初予算から10,172千円のマイナス幅増加)である。当初予算案から特定費用準備金取崩収入を追加計上していないことから、当期収支差額は17,261千円の赤字となり、同じく10,172千円のマイナス幅増加である。公益事業収支は、収入13,918千円増額の525,858千円、支出23,740千円増額の566,089千円とする第1次補正案となり、収支差額は40,231千円のマイナス(支出超過・赤字)で、これは当初予算時から9,822千円の赤字増となる。投資活動収支、財務活動収支等は、期中の現段階では、特定費用準備金積立取得支出等に関する当初予算からの補正は実施しない。

結果、2024年度の第1次補正予算案における当期収支差額は17,261千円のマイナス(当初予算比10,172千円マイナス)としている。なお、収支相償の観点については、第2次補正以降で特定費用準備金積立等の取崩を含め、適切に対応予定である。第1次補正予算案におけるJSAF全体の事業活動収支差額の赤字幅は、対当初予算比約10百万円増加し、約39百万円に拡大している。かかる状況に鑑み、各委員会は、事業計画に沿った厳格な支出管理および支出をまかなう収入ソースの拡大・多様化につき、引き続き、ご協力いただきたいとの発言があった。

中村副会長から、本年度ヤンマーホールディングス株式会社ならびにロート製薬株式会社から協賛いただき、また、賛助会費も積み上げが増減はあるが目標がみえてきた。補正予算では赤字幅が膨らんでいるが、来年度に考慮が必要であるとの発言があった。

望月常務から、赤字幅の拡大は放置しておけば財政が底をつく危機感を感じている。財政委員会の認識をお聞かせいただきたいとの質問があった。

松田財政委員長から、毎年固定費マイナス2千万で積立金を取り崩すと約4~5年で特定費用準備積立金は枯渇するとの発言があった。

望月常務から、補正項目で「弁護士費用」支出についてご説明いただきたいとの質問があった。

安藤専務から、弁護士費用は顧問弁護士費用と昨年来から労働基準監督署からの指導で労働法専門の弁護士費用が発生している。この支弁については次回理事会において説明するとの発言があった。

望月常務から、ガバナンス上も問題で、本件支弁は個人的に寄付をしてでも責任の一端があると認識しているので、条件付きで補正予算を承認していただきたいとの発言があった。

地川理事から、予算は委員会収支±0で作成している現状であるとの発言があった。

安藤専務理事から、弁護士費用支出について12月理事会報告する条件で採決した。

反対0、保留0、満場一致で承認された。

2) JSAF事務局職員就業規則等改訂の件

安藤専務理事から資料に基づき、事務局職員就業規則等改訂の件について説明があった。

現時点で有効な職員の雇用契約に関する規程（職員就業規則、給与規定、職員在宅勤務規定、職員退職金規則）につき、現状の問題点として、①最新の法改正に対応できていない、②労働実態に適合していない、③当連盟の規模・体制に即して現実的に運用可能な制度になっていない、④社会的なコンプライアンス意識の高まりなどの労務管理水準底上げの必要性を踏まえて、労働時間管理の徹底を図るため、勤怠管理アプリを導入し、全面的な規程の見直しをした。また、全職員を対象に未払残業代に関するアンケートを実施し、未払残業代総額 813,063 円を本年 12 月賞与に上乗せして精算予定である。今後、業務命令等は事務局職員の所定就業時間内とし、振替休日の運用をしっかりと管理するとの発言があった。

望月常務から、事務局への指示は原則できないことになるのか。ルールを明確化する必要があるとの発言があった。

萩原常務から、外部役員や委員会委員のメール指示は、職員の所定就業時間外になる。運用の徹底と認識合わせが必要であるとの発言があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

3) 定期表彰に係わる受賞候補者推薦依頼について

浅田総務委員長から資料に基づき、2024 年度 JSAF 定期表彰に係わる受賞候補者推薦依頼補者について説明があった。

本年度から、受賞候補者推薦書の推薦団体の押印は不要とした。また、表彰対象期間を原則 2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までとしたとの発言があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

4) 支援寄付金取扱申請書について

浅田総務委員長から資料に基づき、支援寄付金取扱申請書について説明があった。

一社) 東京都セーリング連盟から、関東学生ヨット連盟が共催する「第 89・90 回全日本学生ヨット選手権大会」の大会運営費を資金使途にした支援寄付金申請があったとの発言があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

5) 報奨金規程別表改訂について

安藤専務理事から資料に基づき、報奨金規程別表改訂の件について説明があった。

現行の JSAF 報奨金規程は、東京 2020 大会時に制定したが、対象大会を東京 2020 大会開催前に国内で開催される世界選手権大会、及び東京 2020 オリンピック競技大会に限定して制定した。今般、パリ 2024 大会において、銀メダルを獲得した選手に対して、現行の報奨金規程の別表 1~3 を改訂して、一人 200 万円を報奨金として支給することの説明があった。

船澤副会長から、アジア競技大会におけるユース選手への報奨金は適切か、また連盟財政事情は問題ないかとの質問があった。

安藤専務から、対象外としているか JOC に確認するとの発言があった。

望月常務から、対象年齢を決めることを申し合わせとすべきとの発言があった。

安藤専務理事から、ユース選手報奨金について 12 月理事会報告する条件で採決した。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

6) SAGA2024 国スポ中央競技役員変更ならびに感謝状贈呈について

黒川国スポ委員長から資料に基づき、SAGA2024 国スポ中央競技役員変更ならびに感謝状贈呈について説明があった。

SAGA2024 国民スポーツ大会の総務・報道部員につき、吉留容子氏から佐藤麻衣子氏に変更する。また、SAGA2024 国スポ中央競技会の大会運営に協力・支援 5 団体に感謝状贈呈するとの発言があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

吉留容子様へ黙とうがあった。

7) 連盟旅費支給規程（車賃支給追記）ユニフォーム規程改訂

宮本オリンピック強化委員長から資料に基づき、オリンピック競技大会の顕彰・表彰対象者(指導者・団体)のスポーツ庁宛推薦、連盟旅費支給規程（車賃支給追記）、ユニフォーム規程改訂の 3 項目について説明があった。

①オリンピック競技大会の顕彰・表彰対象者(指導者・団体)のスポーツ庁宛推薦について、先般の Paris2024 オリンピック競技大会において銀メダルを獲得した 470 級の岡田奎樹・吉岡美帆組（トヨタ自動車東日本株式会社/株式会社ベネッセホールディングス）は、その功績により競技大会優秀者として来る 10 月 8 日に文部科学省より顕彰・表彰が実施されるが、併せて本功績に貢献した指導者・団体についても競技団体からの推薦を行うことで顕彰・表彰対象となる旨、JOC より連絡があった。指導者について、土居一斗氏（オリンピック強化委員会コーチ、470 級担当コーチ）、関一人氏（トヨタ自動車東日本株式会社 470 級コーチ）、山崎昌樹氏（株式会社ベネッセホールディングス 監督）、また、団体について、トヨタ自動車東日本株式会社、株式会社ベネッセホールディングスを JOC・スポーツ庁宛に推薦する。②連盟旅費支給規程への車賃支給の追記について、オリ強にて活用している JSC-toto 助成金については、令和 6 年度に至って当該実施要領が改訂され、車賃の基準単価等が削除されると共に、「助成事業者の謝金規程や給与規程に基づいて支払っていない経費や、規程を超過して支払っている金額については助成対象経費として計上できません」との文言が追記されたため、連盟の旅費支給規程に車賃に関する記載を追記する。③HOPE 選手・強化スタッフ向けユニフォームガイドラインの制定と、ユニフォーム規程の改訂の修正について、10 月中旬の HOPE 合宿期間において HOPE 選手及び強化スタッフ向けのユニ

フォームを配布する段取りが整ったため、HOPE選手向け及び強化スタッフ向けのガイドラインを策定・掲示をして事前にルールの周知徹底を行う。併せて、ユニフォーム規程（ナショナルチーム等強化対象選手・スタッフ規程 付則2：広報活動への協力に関する取扱）について、従来曖昧となっていたチームスタッフと強化スタッフに関して、それぞれを明記するかたちでの表記に改めたとの説明があった。

反対0、保留0、満場一致で承認された。

8) レースオフィサー制度事務処理要領の改正

古屋業務執行理事から、京黒レースマネジメント委員長から提出された資料に基づき、レースオフィサー制度事務処理要領の改正について説明があった。

レースオフィサー制度事務処理要領に規定の講習料金を改定する。NRO講習料金を2,000円増額することで、更新講習の事業単位で収支のバランスをはかりたい。現状の料金設定：講習料1,500円+認定料500円計2,000円（NRO～LRO一律）料金改定は、レースオフィシャルズとして整合性をとる目的もあり、今回の更新講習会を弊委員会と合同で開催する予定であるA級ジャッジの更新講習料金と同額の4,000円と設定したとの説明があった。

反対0、保留0、満場一致で承認された。

（協議事項）

1) 運営規則の改訂（加盟団体規程新設）

安藤専務理事から、運営規則の改訂（加盟団体規程新設）は継続協議とするとの説明があった。

2) ジュニアユースアカデミー委員会謝金支給規定について

中村ジュニアユースアカデミー委員長から資料に基づき、ジュニアユースアカデミー委員会謝金支給規定について提案があった。

ジュニアユースアカデミー委員会が助成金を活用して行う事業を円滑に推進することを目的として、講師ならびにマネジャーの謝金支給単価上限を制定するとの発言があった。

望月常務から、JSC助成金謝金規程の上限（24000円）を確認されたほうが良いとの発言があった。

3) レース運営規則改定案

古屋業務執行理事から、京黒レースマネジメント委員長から提出された資料に基づき、JSAFレース運営規則改定案について提案があった。

萩原常務から、第3条全日本選手権大会開催の条件は、パラ全日本開催などの普及の段階では、

RO や TD などの要請コストを考えるとハードルが高い。また、第5条の全日本選手権大会の取消し条件等は考慮・検討していただきたいとの発言があった。

古屋業務執行理事から、グレード管理などは大会に応じたバランスを考慮して検討するとの発言があった。

船澤副会長から、第2章外洋艇全日本選手権（ジャパンカップ）及び全日本レベルのレースの規則は最新ではないとの指摘があった。

中村副会長から、本資料は修正箇所が異なるため、京黒委員長からレースマネジメント委員会で検討している旨、理事会に伝えてほしいと伺っている。

（報告事項）

1) 業務執行理事報告（業務執行理事の役割分担、経営企画室情報 PF、オリ強委員会人事、能登半島地震災害義援金、前田彰一前専務理事叙勲）

中村副会長から資料に基づき、業務執行理事担当分担ならびに委員会のグループ構成改訂案報告があった。

望月常務理事から資料に基づき、JSAF 情報プラットフォーム（仮称）β1 版検証に対するご協力のお願いについて報告があった。現在までに開発した機能を実装したβ1 版リリース、一部の機能は引き続き開発中であり、β2 版として後日リリース予定である。実際に新システムを試用していただき、問題点・感想等のフィードバック依頼を、加盟団体、専門委員会委員へ依頼するとの発言があった。

馬場会長から資料に基づき、2024 パリ大会へ向けたこれまでの取り組み及び2024 パリ大会での実績に鑑み、JSAF オリンピック強化委員会委員長（JOC ハイパフォーマンスディレクター）は宮本貴文氏に、ナショナルヘッドコーチは中村健一氏に、それぞれ引き続き2028 ロサンゼルス大会終了まで委嘱する旨、報告があった。

安藤専務理事から資料に基づき、当連盟が実施した2024年1月能登半島地震災害義援金募集に関する件の報告があった。2024年1月27日よりJSAF 加盟・特別加盟団体およびJSAF 会員の皆様に対して義援金を募ってまいりましたところ、1,259,522 円の義援金をお預かりした。この義援金目録を石川県セーリング連盟大西会長に直接お渡ししたと発言があった。

安藤専務理事から資料に基づき、前田彰一前専務理事の叙勲について報告があった。

2) オリンピック強化委員会報告（Paris2024 大会報告）

宮本オリンピック強化委員長から資料に基づき、Paris2024 大会報告があった。

セーリング競技としては男女混合ディンギー種目 470 級を始め、男子ウインドサーフィン種目 iQFOiL 級、女子スキフ種目 49erFX 級、混合マルチハル種目 Nacra17 級の4つの種目において代表選手をフランス・マルセイユに派遣した。今回は大会期間が前半の iQFOiL/49erFX と、後半

の 470/Nacra に分かれていたため、一部スタッフが 7 月 13 日に現地入りをして事前準備を行いつつ、それぞれの本大会期間に合わせ、7 月 20 日頃には前半組、7 月 27 日頃には後半組が揃う形で大会に臨みました。470 の岡田奎樹・吉岡美帆組については、初日に得意とする軽風域で抜群のスタートとボートスピードでロケットスタートを決め、以前より改善に取り組んできた 2 日目の強風域でも素晴らしいボートスピード見せてトップをひた走る体制としましたが、3 日目の繊細なボートコントロールが求められる難しい海面の中で、選択の優先順位がうまくかみ合わず、僅差ではあるもののオーストリア、スペインに次ぐ 3 位に後退しました。ノーレースとなった 4 日目を挟み、勝負の 5 日目においてはメダル候補となっていたオーストリア、スペイン、日本、スウェーデンの 4 チームがお互いを意識し合いながらの牽制の掛け合いとなる場面もありましたが、最終第 8 レースでは自らのコース取りをしっかりと行って総合 3 位をキープした。

この 20 年間メダルから遠ざかっていた我が国のセーリング競技の歴史において、今回の銀メダル獲得は悲願のものであり、選手や関係各位のご尽力はもちろんのこと、国内におけるジュニアヨットクラブ、高校大学等の教育機関、セールメーカー、クラス協会といった関係者の皆様方の日々の強化活動があつての賜物と考えているとの発言があつた。

3) パリオリンピック壮行会収支報告ならびに報告会について

富田副会長から資料に基づき、パリオリンピック壮行会収支報告ならびに報告会について報告があつた。

第 33 回オリンピック競技大会（2024/パリ）セーリング競技日本代表選手団壮行会決算報告ならびに第 33 回オリンピック競技大会（2024/パリ）セーリング競技報告会開催について発言があつた。

4) WS カウンシル候補者推薦ならびに専門委員会立候補者報告

堀川国際委員長から資料に基づき、国際委員会報告があつた。

①国際委員会外洋小委員会委員長交代について、国際委員会外洋小委員会委員長を船澤泰隆氏から、鈴木祥子に変更する。②World Sailing では 4 年に一度、各委員会委員及び役員の改選が行われるところ、WS 人事への推薦について、2025~2028 年期各委員会候補（ノミネーション 7 月 31 日締切）に関して Governance Committee 望月宣武氏、Events Committee 斎藤愛子氏、Growth of Sailing Committee 鈴木祥子氏、Oceanic & Offshore Committee 船澤泰隆氏、Parasailing Committee 萩原由紀子氏、Racing Rules Committee 増田 開氏、International Umpire Sub Committee 今津浩平氏、International Judges Subcommittee 田中正昭氏を常任委員会の承認を得て推薦した。③WS が地域毎に割り当てる Council（理事枠：日本は J）への JSAF からの推薦（ノミネーション締切 10 月 10 日）に関しては、望月常務理事と斎藤委員が立候補の意欲を表明され、国際委員会内で投票の結果を常任理事会に報告したとの発言があつた。

安藤専務から常任委員会資料に基づき、今回の WS カウンシル候補者の人選については、先に国際委員会堀川委員長から常任委員各位へ提出された国際委員会検討状況に関する報告書記載内容について、馬場会長として十分検討をいただき、WS カウンシル候補者を望月常務理事とする

ことを決断されました旨の報告があった。

5) 愛知名古屋アジア大会 TOM 選任他進捗状況

安藤専務理事から資料に基づき、2026 愛知名古屋アジア大会 TOM 選任他進捗状況について報告があった。

TOM人選について、2026 年 2 月に、JSAF、AINAGOC 連名にて豊田自動織機に対して、同社桑野安史氏の TOM への就任について要請。副 TOM 候補であるトヨタ自動車松山氏は、本人の AINAGOC 副 TOM 就任に関して、2024 年 4 月以降本人から職場の上司へ意向を表明するも、会社の了解を得られていない状況であるとの発言があった。

6) 総務委員会報告

浅田総務委員長から資料に基づき、総務委員会報告があった。

公益財団法人日本セーリング連盟 スポーツ団体ガバナンスコード<中央競技団体向け>遵守状況の自己説明があった。また、JSAF Club/Class of the Year 2024 Presented by ENEOS 実施要項につき、ノミネートから表彰までの説明があった。

多賀顧問弁護士から、ガバナンスコード専門職削除については、スポーツ庁の定義では運用は従来通りであることから、今後連盟内で検討していくとの発言があった。

7) ルール委員会報告

藤井ルール委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

全日本 470 級ヨット選手権大会おける上告の権利の否認および付則 MR の使用の承認、ならびに、2025 年 1 月 1 日に発効する RRS の改定に伴い、JSAF 規程および JSAF 規程付則 JA の一部を修正し、2025-2028 版として発行するとの発言があった。

8) 普及指導委員会報告

坂口普及指導委員長から資料に基づき、普及指導委員会報告があった。

本年度の公認指導者養成講習会 (JSPO 助成事業) 事業は、アドバンスコーチ (コーチ 3) に 12 名の申込があり、専門科目前期 6 月 28~30 日に東京で実施、後期は 8 月 30 日~9 月 1 日に和歌山で実施された。また、2024 年度から国スボ監督資格はコーチ 3 以上に移行された。普及事業は、①レスキュー講習会、②バッジテスト資格、③指導者向けコーチング教材の開発 (ミズノ助成事業) を実施しているとの発言があった。

9) レディース委員会報告

長田レディース委員長から資料に基づき、レディース委員会事業報告があった。

WS が提唱する「Steering the Course」の一環として、女性にセーリングの機会を増やし、女性のセーリング体験を通して、年齢、性別、能力に関係なくすべての人がセーリングにアクセスできるようになることを推進する事業として、安全性に優れたハンザを用いた「2024 ハンザ体験

試乗会」を開催した。また、セーリング競技に多いスポーツ障害やその予防法、女性アスリートの生理に関する諸問題についてなど、医療的な視点から話を聞き、より良い競技生活とパフォーマンスの向上に繋げるため SAGA 国民スポーツ大会において、「アスリートの身体と健康についての講演会」がある旨、発言があった。

10) 環境委員会報告

安藤専務理事から、大垣環境委員長から提出された資料に基づき、環境委員会事業報告があった。

「サステナビリティ・バイブル」に基づき環境保全を含むサステナビリティ活動を普及している。この度、植田実氏、渡部雄貴氏を「JSAF サステナビリティアンバサダー」に委嘱し、JSAF の活動に関する発信活動等を担っていただくことにした旨の報告である。

11) キールボート強化委員会報告

久保田キールボート強化委員会から資料に基づき、キールボート強化委員会報告があった。

2024 年 6 月に開催された FISU 世界大学選手権に、日本代表として名城大学ヨット部（U25&大学対抗マッチ準優勝）が出場し、16 チーム中 12 位の成績であった。名城大学チームから提出された出場報告書は、JSAF ホームページキールボート強化委員会に掲載されているとの発言があった。

12) 外洋常任委員会報告

船澤外洋常任委員長から、海外のヨットクラブ事情およびパールレースについて報告があった。

鷹野理事から資料に基づき、欧米のヨットクラブの役割について、①あらゆるヨット関連の拠点、地域のレジャーの拠点である。セーリング、フィッシング、ヨッティングコミュニティの拠点、地域のクラブメンバーとその家族のレジャーの拠点、地域への貢献。②レースの組織、運営をする。クラブレースから、世界選手権やオリンピック、アメリカズカップ、チャリティーレガッタ（サンディエゴの病院、ホスピス、軍隊の家族へ貢献）を開催している。③ヨットに対する興味と推進と養成・育成をする。ジュニアプログラム、メンバーのレース育成、参加、派遣（国内、海外）を行っているとの発言があった。

坂谷顧問から資料に基づき、2024 パールレースの報告があった。

13) インターハイの報告

中村常務から資料に基づき、インターハイ報告があった。

インターハイ固定開催の 10 年目となる大会で、今年は 8 月 8 日夕刻に発生した宮崎県日向灘を震源とする地震から「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表され、和歌山県、和歌山県実行委員会が対策検討会議を招集した。JSAF から安藤専務、中村常務は和歌山県セーリング連盟理事長として参加し、8 月 9～10 日の 2 日にわたり協議を行い、対策案を提示し承認され、大会が実施された。また、全国高校総体ヨット競技大会開催中のモラル・マナーに係る事案について報告がでているとの発言があった。

13) その他委員会報告

尾形 eSailing 委員長から、第 5 回 eSailing 全日本選手権大会のお知らせがあった。

9 月 14～15 日、第 5 回全日本選手権大会が開催される。9 月 15 日（日）の 18 時からの決勝シリーズでは、初めての試みとして日本オリンピックミュージアムの大会会場もリアルで開設し、トップクラスの選手がレースを行う様子を間近で見ることができるとの発言があった。

14) 2024 年度メンバー登録数（8 月 31 日現在）

15) 2024 年度定時評議員会議事録案（6 月 15 日）

16) 2024 年度通常第 1 回理事会議事録案（6 月 15 日）

17) 2024 ヨコハマフローティングヨットショー

上記の項目について、寺澤事務局長からまとめて報告があった。

以上をもって、オンライン会議システム ZOOM を使用し終始異常なく、議事全てを終了したので、議長は 15 時 30 分に閉会を宣した。

2024 年度臨時（第 2 回）理事会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2024 年 9 月 7 日

議 長 会 長 馬 場 益 弘

議事録署名人 理 事 井 上 貴 支

議事録署名人 理 事 川 戸 仁

副会長 中 村 隆 夫

副会長 富 田 三和子

副会長 船 澤 泰 隆

副会長 土 肥 美智子

専務理事 安 藤 淳

常務理事 望 月 宣 武

常務理事 中 村 和 哉

常務理事 萩原 ゆき

監事 上野 保

監事 紙谷 雅子

監事 鈴木 保夫